

伊藤 正子 議員



問 高齢者支援の現状について

答 高齢者が安心して暮らせるまちづくりを目指す

高齢化が進み、住み慣れた地域で生を全うしたい、顕在化する課題を抱え、高齢者単身世帯の「見守り支援」「生きがづくり」の推進等は。

による状況は。

健康福祉課長 介護予防が必要となってくるであろう65歳以上の方を対象に実施。ほぼ100%の回収率を得ており、データをもとに介護予防に取り組みたい。

町長 誰しも人生の最期まで住み慣れた地域で自分らしい生活を送れることを望んでいます。高齢者支援対策をはじめ、安心して暮らせるまちづくりに努力したい。

問 町の高齢者数と率は。

健康福祉課長 平成29年2,610人、29.5%。高齢者単身世帯87世帯の見守り支援が必要とされる。

問 生きがづくりの推進は。

健康福祉課長 就労支援としてシルバー人材センターを法人化し、高齢者雇用の場を拡大。就労率は89.3%と高いのが特徴。

	総人口	65歳以上	高齢化率
H27年	9,092人	2,413人	26.5%
H28年	8,930人	2,520人	28.2%
H29年	8,840人	2,610人	29.5%

町の高齢者数と割合

問 生活機能のチェックリスト

問 交通安全対策について

答 公共交通体系の整備を図る

交通弱者である子供と高齢者。児童・生徒の登下校の安全対策としてスクール・ガードの導入を。高齢者、車の運転免許返納者の支援は。

町長 高齢者の交通安全対策は大きな課題となっている。町民の高い免許証保有率、生活に不可欠な存在。免許証を自主返納した高齢者にとって、別の移動手段を確保しなければならない。町の地域性を検証しながら公共交通体系の整備を図って、環境づくりをしっかりと進めたい。

問 毎日の交通量の増大で町の環境も大きく変化し、登下校の安全対策として「スクール・ガード」の導入についての考えは。

教育長 活動人員の不足や高齢化が課題。学校、地域と連携を図りながら五霞町の実情に合った安全対策を検討したい。

問 高齢者の車の運転について。

生活安全課長 車の運転が困難になる高齢者がふえ、安心して外出できるようコミュニティ交通「ごかりん号」を利用してもらうため、シニアカード提示による運賃の割引など、さまざまな形で周知し公共交通の充実を図り高齢者の事故防止に取り組んでいきたい。



スクール・ガード